

### 第3回地域力・つながり部会

日 時 平成20年11月18日（火）午後6時30分

場 所 川崎区役所7階会議室

出席者（敬称略）

（1）委員 7人

猪熊俊夫、吉野智佐雄、藍原晃、島田潤二、朴栄子、星川孝宜、宮崎とみ子

（2）オブザーバー 1名（副委員長）

荒井敬八

#### 1 開 会

事務局 <会議開催の事前公表、会議録の開示、傍聴の順守事項、会議の記録、広報としての写真撮影を説明、出席者を紹介>

#### 2 議 題

（1）実行計画について

部会長 事務局に資料説明をお願いしたい。

事務局 <資料に沿って説明>

部会長 皆さんから出していただいた解決策が、お手元の資料に書かれている。それを参考にしつつ実行計画について議論していただきたい。ご自分の意見が書かれている部分について、発言してほしい。

最初の課題「情報発信、情報共有化」についてはいかがか。

委員 提案をまとめるのでまちなかを歩いてみた。前回の会議で、よくわからない案内が多過ぎるという話があったが、その意味がわかってきた。例えば、災害時の避難場所について、この地区は何々小学校と書いてあるが、引っ越してきたばかりだったら、どこにあるか見当がつかない。せめてあっちの方向へ行けばその避難場所があるなどの表記が必要ではないかと思った。

また、インフラ的な、基礎的な部分として、まちの地図がほとんどない。商店街が自主的に作った、商店名を列記したものはあるが、町名や番地を書いた地図は私が自転車で回った範囲では皆無だった。公共機関だけでも記入して、あとは地番だけでいいと思うが、そういうものが足りないのでは。このように、情報伝達手段がまだそろっていないと感じる。

それから、隣の町内会が集まって何かをやっているというときでも、こちらの町内会は全然知らないというケースが非常に多いと思う。もう少し地域ごとに話し合いの場があってもいいのでは。町内会事務所は入口がいつも閉まっているので少し入りづらい。それとは別に、ミニギャラリーのようなものを最近見かけるので、ああいうところを活用してはどうかと思っている。地域ごとに気軽に情報交換できる集会所のようなものが必要ではないか。それがどこにあるかを、地図上で示す。その上でさらに、区内をまとめる形での多目的集会所のようなものがあると、尚良い。

部会長 今のは課題だが、それについて誰が、どういう形で何をするかという実行計画の形にまとめていただきたい。

委員 地図を設置するのは、地域ごとに作るより、行政で整えたほうがいい。ミニギャラリーやミニイベントホールなどは、今は皆さんが自主的に作っているようだが、補助金というわけにもいかないだろうから、優遇税制措置をとるのはどうか。やはりこれも行政問題。

それから、川崎の歴史資料館、川崎の地域住民が広く使える多目的な情報受発信拠点を作ろうという運動がある。斎藤文夫先生が中心になっている。こういったものもぜひ年度内ぐらいには実現できるようにしてほしい。これもやはり行政にお願いすることになる。

部会長 今、ミニギャラリーや情報発信センターというキーワードで出てきたが、できれば具体的にこういうものだと言っていたらと、皆さんも整理が付きやすい。

委員 具体的に言えば、資料に「町名、地番入りの案内地図板の設置」とあるが、こういったものを行政が中心になって立てていただきたい。

それから「地域情報誌の充実」も私が提案したもの。町内会報はほとんどの町内会で出されているようだが、全ての会報が見られるギャラリーや図書館のようなものも欠けている。

これらを総合すると「地域情報を集約する情報の受発信拠点を設置する」という意見になる。もう少し具体的に言えば、川崎の歴史を知れば、古い住民も新しい住民もまちに対して親しみを持てるので、歴史的な資料館を軸として、住民が全員使える多目的な情報受発信拠点という意味。

部会長 実施主体については、地域情報誌も行政か。

委員 実際の発行主体は町内会だろうが、それを促進するのは行政となる。

部会長 3つとも行政にやっていただきたいという意見か。

委員 これはインフラだと思うので。

部会長 ほかにはいかがか。

委員 資料にある「区民、団体、グループの交流促進」を提案した。主体としては、組織力を持つ町内会、PTA、婦人会などの方々にリーダーシップをとっていただきたい。

例えば町内会の場合は、地域の情報交換の場所としては同じ番地の5、6人の小グループが良い。大きなグループだと入りにくい。昔の井戸端会議的なもので、余り形式張らないものをまず作る。その中でまちのことや言葉のこと、子どものことなど、いろいろなことを情報交換をしていく。

そしてそのグループの中の1人に、町内会館に1カ月か2カ月に1回来てもらって、状況を話し合う。そこでまた1つの大きな場所ができるのではないか。そのようにして、小さいものから大きなものへつなげていく。そうやることで、小さい団体でも1つの勉強会のようなものができていくと思う。

情報発信方法には、こういった形で下からたたき上げていく方向と、町内会、PTA、婦人会の理事から、こうした小さいグループまで情報を流す方向があり、それを行き来することによって地域の活性化になる。

前回の部会で委員から出た発言が頭から離れないのだが、外国人の方々でもそういう中から言葉や市役所への行き方を覚えることもできるのではないか。また、PTA関係の人がその中にいれば、子どもの教育について話し合うこともできるだろうし、婦人会の人がいれば、子ども会のことを紹介できるだろう。地域の情報交換づくり、グループの交流促進に役立っていくのではないか。

部会長 「町内の番地ごとに」ということだが、PTAや婦人会は1つの単位で考えているのか。

委員 PTAや婦人会も大きな情報を持っているので、ぜひ参加してもらおう。その番地になくても、隣にいれば、ちょっと来てよと気楽に声をかけていくことが大事ではないか。

もう一つ「情報発信方法の充実」についてだが、先ほども話に出ていたが、避難場所などを示した災害時の案内板が非常に少ないと思う。もし商店街で大きな地震が起きた

場合に、どこへ避難するかということがわからない。地域に住んでいる人はどこどこへ行くと言えはすぐ避難できるが、商店街では他都市から来た人も多く、どこへ逃げていかかわからない。だから、せめて人目につきやすい繁華街や信号機の隣などに、避難場所を示すべきだと思う。これは行政にお願いしたい。避難場所の地図について商店街がかかわるようならば、私も中央商店街連合会の中で意見を聞いて、まとめられると思う。

部会長 災害時の避難ということだと、防災についての課題にも含まれる。

1つ目の情報発信についてほかにあるか。

委員 私はいろいろなイベントを組むのが仕事なのだが、ポスターなどを張る場所がなかなかない。町会に属していないと張れなかったり、行政情報しか張れない掲示板が多い。しかも町会の掲示板は町会の人しか見ないし、行政の情報コーナーに置くのは役所に来る人しか見ないので、知らせる場所がない。

主婦はスーパーに行くので、そこに張らせてもらえれば一番良いのだが、スーパーはすごく厳しい。「張れません」と言われることがほとんど。一度だけ区と共催した際には「役所のものだったら」ということで張ってくれた。ぜひスーパーに、その地域の催しものだけでなく区内のいろいろな団体などの紹介ができるような、情報を伝えたい人が自由に張ることができるような展示コーナーを置いてもらえるようお願いをして、作りたいと思う。

誰がやるかということだが、一般の者が言ってやってくれるのか、区役所が頼むのがいいのかわからない。私たちがやっていいのだったら、区民会議としてお願いをして回ったり、商工会議所のような大きなところをお願いをしてもらう。区民会議の任期が終わるまでにできればいいと思う。

部会長 スーパーに掲示板が欲しいという意見。

委員 スーパーでなくても、お店にあれば良い。

委員 スーパーの話に関連するが、社会貢献ということがキーワードとして言われている。特にコンビニは不特定多数の人が来るので、防犯上の問題も関わる。喫煙・飲酒防止などについては、青少年の育成という観点で、年齢の確認が既に条例化されている。条例化された場合、誰が責任を果たしていくかということ、売り手の側。売り手の側でしっかりと確認をとって相手に説明するという点で、社会的な接触が出てくると思っている。

そういったことを考えてみると、地域力・つながりということ、どういう場所を提供するかということが大事になってくると思う。これは、行政の力を借りながら、当事者が

接触するということになるだろう。子ども・大人・青少年などの世代を超えたつながりを考える場合には、その世代に何ができるのかを考える必要がある。子どもはあくまでも遊びを中心にした、成長期の問題を中心にしたもの。青少年の場合は防犯や防災など、体力が要するような分野。大人・高齢者は福祉や環境など。そのように絞って、それを誰がやるのかと考えるべきだ。

部会長 次は2番目の課題「人づくり、世代のつながり」。この課題について考えてこられた方に発言をお願いしたい。

委員 地区町内会連合会の下に各町会があって、その中で人材育成をしているわけだから、人づくりは各まちですでにできている。

大島4丁目では、行政から情報が来ると、町内会の下にある部会の部長に連絡し、各町会員に伝わっていくことになっている。区町内会連合会でも、広報委員会を作って各まちに流している。各まちもその情報に各町会で作ったものを合わせて、回覧で流したり、個々に配付したりしている。

委員 その通りだ。例えば田島地区には約600世帯だが、掲示板をとおして情報を伝えるには少なくとも12個は必要であろうということで設置した。1つの掲示板をつくるのに10何万円かかるが、行政はお金をくれないので自分たちの町会費から出して作っている。

誰が、という話をしているが、結局主体は我々住民だ。行政から来る情報を利用して、何かに取り組む。

委員 それだけの手段で広報するのは無理だと思う。

委員 どういう形でそのフォローをするか。

区長 町内会組織は役員の方が運営されているが、新しく地域に入って来た方に関しては、また違ういろんなグループ活動がある。そこの人づくりや情報の共有・発信などについても、議論をしていくことが必要だと個人的には思う。

委員 確かに地域には町会や市の掲示板がある。町会に属する情報は、町会の掲示板で張り出すことは可能だが、先ほどから話の出ているイベントの情報などを発信したいときには張ることはできず、また市の掲示板にも張ってはいけないうらう。だから、主婦が集まるスーパーなり、地域の中に掲示できる場所を設置できるよう、区民会議で行政に

対して働きかけていくことも考えられる。

区長 また調べてお伝えするが、市の掲示板には市からの発信物でないと掲示できないだろう。行政が掲示板を設置するというお話だが、そうすると現在の市の掲示板のような、ある種の制約が出てきてしまうのではないかと。

委員 掲示の下に「川崎市」ではなく「区民会議」なり、区民のみんなが掲示できるものだと示すことができれば良いと思う。

事務局 課題の2「人づくり、世代のつながり」について、もう少し意見をいただければと思う。

資料の冒頭に「団体、グループのリーダー養成講座の開講」とある。団体、グループというのは町内会ではなく、新たに地域の受け皿になる団体を指していると思う。地域で何かを進めていく、つくり上げていくためのリーダーを養成するための講座を開講するという解決策だと思うが。

委員 「つながり」と言うと、どうやってつなげるかという問題が出て来る。私は今、TMOという組織で、例えば川崎にワンコインバスを走らせようだとか、あるいはバスカーといって、路上演奏者をまとめて、土曜に川崎に行ったら必ずどこかの商店街で音楽をやっているようにしようだとか、そういうことをしている。その中でフェスティバルな川崎実行委員会というものをつくっていて、青少年に入ってほしいと商店街などをお願いしていくと、結構いろんな人が集まってくる。そこで自由討論をすると、私の年代では全然思い付かないような発想が出てくる。それが30～40項目出たので、部門別に分けて、どうしようかという議論を我々大人がしている。そのようなつながりのつくり方もあると思う。

若い人たちに組織に入ってもらって、指導者として育てていくのが大事だ。今は少子化なので、町内単位に考えてしまうと本当に少ない。小川町では、子ども会の親分もいなくなってしまった。だから、おみこしの担ぎ手がないなど、いろんな問題が出てくる。

川崎市には青年会議所がある。私はそこの出身者だが、いろんな企業の人が集まってきたので、いろいろな手法を自然と勉強した。この青年会議所は年会費として結構なお金がかかってしまうが、TMOの場合は呼びかけをして、お願いしますと来れば入ることができる。地域の中で活躍できる青少年を育てようというのであれば、そういう組織を使うことも大切なことだと思う。

事務局 具体的に言えばどのような方法があるのか。

委員 例えばTMOの場合は、私のほうへ申し出てもらっても良いし、産業振興財団の中のTMOへ手紙1通書いてもらえれば良いと思う。

部会長 「地域の若手による集会の開催」という意見も出ているが。

委員 対象としては30～50代を考えてた。企業家で言えば、その年代が会社でも一番重要なポストにいる。逆に、果たしてそのような人に時間があるかどうかという問題も確かにあり、だんだん若い人たちがこういった団体に少なくなっていくのは事実。

もう1つ、私はPTA出身なのだが、PTAには若い父親がいる。母親だけではなく男性もそういう中へ送り込んでいけば、地域の交流のつながりや、人材の育成に役立ってくると思う。ただ、それをどうやって送り込むかという、周りの人の勧めしかない。おれは嫌だと言う人が今すごく多い。その中で、その団体の楽しさを話しながら送り込む方法が必要だ。

先ほど青年会議所のことを言ったが、青年会議所の事業がすばらしいから事務局へ1人で来たというのは10年に1人くらいしかいない。

委員 今の話の延長だが、地域活動に参加しないという理由としては、きっかけがない、どこに申し込めばいいのか分からないというのが一番大きいのだと思う。町会長に言えばいいのか、それすらわからない人もいる。また、今発言があったようなことを知らない人が多い。個人的に聞くとやりたいという人はかなりいるが、いざとなると出てこない。きっかけがないし、出しゃばっていると思われたくないという内気な人もいるだろう。

そこで、まちの中に集会所やミニギャラリーのようなものを作って、同じ趣味の人などが気楽に集まれる、センターが必要だと思う。こういうものは、活動をする前の条件整備の部分だから、町会が負担するのではなく、行政が補助金や税制優遇措置などをすべきではないか。

委員 TMOでも、自分から出てくる人もいるし、友達からこんなおもしろいことをやっているというのを聞いて来る人もいる。そういう口コミも大事だ。単にポスターを張っても余り効果は期待できない。例えば京浜急行の車額に張るなど大きなことをやれば別だが。

委員 区民活動はある部分は口コミ頼りなのだが、そういった条件を整えていただけない

かなというのが希望だ。

委員 「人づくり、世代のつながり」に関しては、スポーツを通して交流を図って、若い人をどんどん引き入れていきたいと思っている。私はそういうふうにも今までもずっとやってきた。これがまちづくりで一番いい方法だと思っている。

部会長 「スポーツを通じた交流の実施」についての提案だが、具体的にはどういうことか。

委員 これは趣味でも良いと思う。例えば写真の展示会を、30～50代の素人の自由参加というように年代で区切って行う。スポーツも含めたすべての趣味の同好会。

部会長 それをどうやって実行するか。

委員 小学校では校庭開放委員会をつくって、校庭や体育館をどんどん貸している。うちの町内でも体育館を毎週借りて、ママさんバレー、バトミントン、卓球などを7時から9時まで集まって練習している。卓球をやっているから、バレーをやっているから出たおいでよということで、人を集めてくる。そこで2時間だけだがいろんなことをやって、皆さんが交流を図っていけば、人は結構集まってくる。

学校の側に114世帯のマンションがあるが、そこからも大分出てくるようになった。子ども会からも30～40人も出てくる。

部会長 地域力・つながりを今まで以上に強めようという審議テーマなので、今までやっているからいいというのではなく、さらに強めるにはこういう方法があるという具体的なものが必要。

委員 例えば今出たようなスポーツを、全部の町会で毎週1回、学校の体育館を借りて行うことを区民会議で提案していくのはどうか。

委員 今は小学校も中学校も全部貸し出しをしているので、毎月定例でやりたいと言え、繰り入れてもらえる。

委員 そうでもない。団体登録をして、しかも町会に入っている団体でないといけない、その小学校の卒業生じゃなければいけないなど、厳しくてなかなか借りられない。

学校の体育館を、学区内の住民に開放する日を作ってもらおうというのはどうか。今話



に出たようなことを、各地域で開くことができれば、とても良いと思う。大島4丁目で借りているから、4丁目の人は誰でも来ていいということになっている。同じようなことを他の地域でもやれば良い。学校開放委員の中で、毎週この日は学区の住民への開放デーということにして、そこに体育指導員がつけば、尚良いと思う。自由に卓球などをやれる日が1日あると、中学生はすごく喜ぶ。

私が勤めているふれあい館では団体登録をして、土曜日に体育館を借りて中学生に開放しているが、すごく喜んでいる。そこに町会の大人も入ってくれば、例えば卓球の上手な大人に教えてもらったりなど、それこそつながりができる。

委員 表でやるソフトボールなどは、最近場所が取れなくなってきた。そこで、誰でもできて場所も取らないカローリングを広めてはどうかと、体育指導員から提案があった。

そこで、我々の地域の連合会で1回やってみようと、来月企業の体育館を借りてやることになった。小さいお子さんでも大人でも誰でも、場所を取らないで参加できるようなスポーツだろうと思う。

場所の制約だとか登録しないとできないとかということは、そういうスポーツが広まればなくなるのではないか。

委員 あれは物が高く、町内だけでは買い切れない。60万〜70万する。だから、区で買おうということになっている。

委員 そういうものを貸し出しできるようにしたらどうか。

事務局 小学校の校庭や体育館の利用については、教育委員会もかかわる話なので、ここのだけで、できるできないという話にはできない。区民会議でそういう要望があれば、区役所が教育委員会に掛け合うという話になると思う。

区長 各学校の判断基準が共通なのか個別なのかということもある。それについては行政で調べて、区民会議の要望にするか区の要望にするかということを考えたい。そうして初めて、個々の話になってくる。その道具としてカローリングも1つの重要な要素だと思う。

委員 障害者等までを含む、体を動かすだけではなくて文化活動も必要ではないか。

委員 カローリングというのは全然イメージが湧かない。

委員 カーリングは氷の上を滑らす、氷がないから体育館でやる。ストーンの下に車が3つ付いていて、そっと転がす。そっと転がさないと、真っすぐ投げようとしても横へ行ってしまふ。そのストーンが結構高い。1組3人で6個必要になり、それだけそろえると結構高くなってしまふ。

委員 もしそれを貸し出しできるようになれば、決してやれないスポーツではないと思う。天候に左右されない、結構喜ばれているようだ。

区長 貸し出しについては、皆さんが区にそういう提案をいただければ、考えなければいけない。全区的に展開して、小学校の体育館をその練習のために優先的に貸してもらうとか、曜日を決めて貸してもらうとか、区としても教育委員会なり学校に個別にお願いはできる。

部会長 こういった具体的な提案が欲しい。場合によっては、例えば区長杯などを作って、新しいスポーツとして区全体で普及を図り、その結果つながりができるというストーリーになることも考えられる。1つの提案として取り上げたいと思う。  
次に3つ目の「防災訓練」の課題について。考えてこられた方はいかがか。

委員 災害が起きたときのために、地域に情報を掲示できる場所があると良い。  
また災害に備えた取り組みという点で、地域で行う防災訓練の回数が昔に比べて少し減っている気がする。以前は、公園等で大がかりな訓練の体験をした覚えがある。地域のつながりのために、教育委員会等に働きかけてもらって、体験的な訓練を学校の中でやるというのはどうか。

区長 18年度のデータでは、中学校区をベースにして3カ所ぐらいで防災訓練をやっている。

委員 うちもつい最近やったが、つながりをつくるために大人だけでなく、地域の生徒を巻き込みたい。日曜日だと生徒もほとんど出てこない、例えば昼間に授業の一環として、学校も主体性を持って一緒にやるような取り組みができないか。

区長 中学校区の防災訓練で何をやっているかは正直わからないが、おそらく逃げるだけで精いっぱいだ。

委員 逃げるだけでなく、体験的なことも実際にやらせる。

学校の中にはいろいろなものが備蓄されている。そういうようなものや、簡易トイレの設置の仕方なども、実体験として生徒と一緒にやる。生徒の安全性ということは十分に理解できるが、それを重視すると、はっきり言って何もできない。そういうものを体験することも必要だと私は思う。それを単に地域の中でやりますと言っても、無理だと思う。

事務局 中学校にはやはりカリキュラムがあって、限られた時間の中でやることになる。避難訓練だけならそれほどかからないだろうが、地域の団体も巻き込んだ全体的な防災訓練だと、相当時間がかかる。果たして学校の協力を得られるか。

委員 確かに中学生だからまだ児童で、子どもに頼ってはいけないと言われてしまえばそれまで、大きな壁はあると思う。ただ私が提案したのは、昼間に災害が起きた場合、大人は外に出てしまっている。地域の中に企業などがあれば、そういう力を借りることも確かにできるだろう。ただ、学校も避難場所になる。子どもも避難させなくてはならないということは十分理解はできるが、その中で少し力が発揮できるところがあるのではないかという期待もある。

区長 川崎は事業所が多いので、事業所の働き手と地域がどうかかわりをするかという大きな問題がある。

また、おっしゃるように中学生を応援にやるということは、正直言って非常に抵抗がある。確かに若手の力は要るのだが。

委員 縦割りなどで、行政の立場のいろいろできない壁があるとは思いますが、案を出しても、そうやって返されると、何も私たちが言うことができなくなる。

区長 だから区民会議でやるということもある。実際にやろうということになれば、学校の防災訓練のときにやってもらうなどの方法は出てくると思うが、先ほどのような懸念があるので、総論として中学生を災害援助の手として使うことには相当壁が厚いことを情報として提供した。それをどうやって超えていくかということは、また考える必要があると思うが。その前に、地域の企業の働き手をどうするかという課題があるわけだから、そっちが先だと言われると、反論のしようがないのではないか。

委員 PTAの中にいろいろ委員会がある。そこに防災委員会をつくってはどうか。PTAの中で会長と校長がよく話し合えば、できると思う。そこで月1回を防災の日とするなど、実際に訓練をするよりも意識付けることが大切。防災訓練まではいかないまでも、

そういった委員会に親と子が参加しながら第一歩として意識づけをしていくということが大切だと思う。

委員 実はこの案件は、私が中学校区の地域言教育会議をやっていたときに、地域力のテーマで、中学生はどんなことができるのだろうという投げかけが校長からあって、1回講演会的なものを行ったことがある。次はそこから一步進もうというところで、止まってしまったが、前に進んでみようとした経過はある。

委員 今、学校で職場体験に大分力を入れ始めている。校長なりが企業に依頼して、自分の生徒の面倒を見てもらうということ、今年の夏休みにやった。教育委員会も校長のやっていることについては十分に承知している。昼間は壮年者はいないのだから、こういった実際の防災について子どもさんを巻き込むというのは理解できる。

委員 中学校区ごとの避難所では、範囲が広過ぎてだめだと、私はずっと言ってきた。その4階に物資を置いたって、災害があったら取りに行けないと。

避難所は小学校区単位になっているわけで、中学校に置いてあるものを小学校に分散して細かく置いてほしいという話が、それぞれの地域から出ている。小学校の各教室に必ず空き部屋がある。校長に話をすれば、そういうところに置ける。それがなぜ実現できないのかと聞くと、金がないのだと。物をたくさん置こうというのではない。中学校に置いてあるアルファ米などは、相当古いものもある。

事務局 これについては、総務局の危機管理室でいろいろな対応をしている。確かに中学校区では広過ぎるということで、小学校に備蓄倉庫を置く方向で検討しているが、なかなかスペースがない。スペースがあるところについては置いていこうという方向で今動いている。全く動きがないということではない。

委員 小学校区単位で避難所になっているのに、そこに避難したって水も何もなければどうしようもない。だから、各家庭で2日分のお水とか食べ物は用意しておきなさい、お風呂も入るまで前のお湯を捨てないでおきなさいと、町内会連合会でも話をしている。お湯を捨てないでとっておくと、災害時にはトイレや洗濯にも使える。

避難所になっていて、災害があったとき物がなかったらみんな死んでしまう。役所からの連絡を待っていては間に合わないのだから、まちの人が率先して事を起こさなければ仕方がない。そのために少しずつ物資も確保することを、ぜひお願いしたい。

部会長 区民会議は区民がやること、行政がやること、協働してやることを考えるところ

だと思うが、今のところ行政頼みが随分と多い。区民でこういうことができるのではないかという視点でお話しいただければと思う。

委員 防災訓練ではなくて、防災フェアをやってはどうか。外国人は大きな地震を経験したことがないので、起震車に乗ったり、アルファ米を食べたり、AEDを使ってみる。また、簡易トイレを組み立てたり、段ボールの仕切りの中で実際に寝てみるなど、地震体験ではなく避難体験。煙の中を通るなど、地震が起きたときにはこんなことをするのだという防災フェアはどうか。各中学校区には備蓄米があるのだから、期限が切れる前にそれをみんなで試食をするということも含めて、中学校区で防災フェアを、町会やPTA、学校などの協力を得て年に1回やっていく。

その際は必ず町会に入っていない人や高齢の人、障害のある人、外国人の人たちにも参加を呼びかける。我々は障害がないので自由に歩いたりできるが、障害のある人たちにとってはそうではないことがわかれば、この場所は変えたほうがいいのか、体育館のここは工夫したほうがいいのかということも、毎年やっていけば見えてくると思う。

私たちは実は2年ぐらい、外国人に声をかけて防災フェアをやっている。119番の電話のかけ方も知らないなので、通訳をつけて、実際に消防士さんの前でやってもらう。また「火事です」という日本語を覚えなければいけないなど、実際に体験してもらっている。

こういうことは行政の力を借りないでも住民でできるし、自主防というシステムもある。自主防の人たちは毎年訓練をしていると思うので、そのノウハウを生かして、町会だけではなく、その中学校区に住んでいる住民に声をかけて、一緒に防災を体験しようということやっていってはどうか。

部会長 町内会、PTA、自主防災組織が中学校区で、外国人も入れて防災フェアを行う。これも1つ取り上げたい。

3つ目の課題「防災訓練」については、東扇島東公園が広域防災拠点としてオープンしたのだから、その活用も考えてはどうか。まだまだ知らない人が相当数いると思うので、行政の力も借りつつ、自主防災組織が中心になって、防災意識の向上を目的とした見学会や講演会を実施するのはどうか。

もう1点、外国人市民向けに防災マップをつくってはどうか。川崎区のホームページで6カ国語の案内ができたが、量的には1枚程度の情報しかない。ほかの区ではやっていないので前向きな取り組みだが、特に外国人市民が最も多い区なので、英語だけではなく、母語で防災マップを作ってはどうか。

これもあくまでも提案なので、ご意見があれば後ほどいただきたい。

1つさかのぼるが、課題2「人づくり、世代のつながり」の中で、シニア世代の活用という意見があった。第1期区民会議ではシニアの活用がテーマで、マリエンで講演会

をやったり、臨海部の見学ツアーなどを行った。その企画事業にはシニアの方が大勢参加され、しかも今まで地域活動をしたことがない人に参加していただいた。今までに町会活動などを行っている人ではなく、シニアとしての居場所を求めている人に参加してもらえたという意味では、非常に成果があったと感じている。シニア層は毎年増えているのだから、1回限りではなく継続してそういう活動ができないかということをご提案したい。

次に、4つ目の課題「外国人市民」について、ご意見をお願いしたい。

委員 まず1つは、区内の情報をメルマガで発信する。私はコミュニケーションボランティアというグループにかかわっていて、翻訳や通訳のボランティア活動をしている。その活動の一環で、外国人向けに川崎区多言語生活情報のメール配信をしている。情報源がないので、市政だよりから必要なもの、特に子育てをターゲットにした保健所の情報を、易しい日本語、スペイン語、ポルトガル語、英語にして送っている。携帯電話を媒介としているので、これだけしかできない。中国語を現在模索中だが、ハングルは携帯電話が対応していない。ほかの言語の方たちは、易しい日本語のところでクリアしている。

今は試験的にグループ内の外国人の人たちにだけ配信をしているが、これをぜひ川崎区で暮らしている外国人の人たちに広げていきたい。また情報源についても、これをにお知らせしてくださいと積極的に情報をもらえれば、すすすすかわさきっ子のよう形でできるのではないかと考えている。実際に動いていることなので、今度町会でこんなことをやるから来てくださいなどという情報源さえあればできると思う。

このメールの広報に関しては、今はルートがないので仲間内だけの口コミでやっているが、川崎区に来た外国人の人たちに、こんなのをやっていますと役所で配るなどできれば、もっと活用ができるのではないかと考える。

区長 そのメルマガは何人ぐらいに配信しているのか。

委員 今うちのボランティアだけなので、四、五十人。チラシも作って、いろんなところに配り出そうとしているところだが、まずやれるかがわからなかったのがグループだけでやってみた。意外にできて、ことしの4月から始めて20号になる。

区長 外国人の方は大体携帯を持っているのか。

委員 固定電話を買うより楽なので、持っている。パソコンは持っていないけれども携帯でメールをしている。

事務局 それを全部の外国人に広げたい、委員が発信作業はするので、行政のほうで外国人登録窓口なりでPRをしてほしいということか。

委員 はい。それに情報が市政だよりだけで、大きなものしか載っていない。例えばまちの中のお祭りなどは載っていないので、タウン誌などを見て拾っているのだが、外国人のお客さんをお呼びたいとかターゲットにしたいというときには、情報をもらえれば翻訳して配信することができる。

委員 川崎区は20人に1人が外国人だと言うが、外国人の大まかな総合意見というのはどこから出ているのか。委員によってはいろんな人脈でいろんな方の感想を聞いていると思う。我々も話を聞いていて外国人の意見がだんだんわかってきたが、我々から見ると雲をつかむような話だ。

例えばスペイン系の方は日曜日には教会によく集まっているし、聖マリアンヌ教会にはフィリピン系の屋台が出ているが、外国人のグループなり集まりというのはあるのか。そういうところで、少なくともこれだけは日本側も対応してくれとか、我々はこのことをやりたいだとかの総意は出てくるのか。誰と話せば外国人の総合的な意見や感想が聞けるのかが分からない。

私が一番聞きたいのは、川崎駅に日本語とハングルと中国語が書いてある。あれは本当に利用されているのか。

区長 誰も調べていないのだから、使われているかという質問には答えられないと思う。外国人の方が数として多いということで、意見がどうということではない。言葉が通じないなら、最小の範囲で通じるようにしようということで、相手の意向は関係がない。

委員 外国人が行って意見を出す場所がないので、皆さんのところに外国人の声が届かない。私のような者が代表して話すしかない。私やふれあい館の職場にかかわっている人が外国人の声を聞いて、発言できる場所に行って、その立場として伝えていくぐらいしか川崎区の中にはない。

教育文化会館では「にほんごひろば」というものをしていて、そこでかかわっている人たちは外国人の声を聞くので、代弁して言うことはあり得ると思う。公的な場所として外国人が集まってくる場所は、ふれあい館と教育文化会館しかない。民間としては教会などがあるが、その人たちの声を聞くという場所はどこにもないので、外国人の声が聞こえてこない。

区長 外国人市民会議がある。

委員 外国人市民会議では、市の大きな枠の問題になってしまうので、区の中の問題は扱われたい。駅に書かれている外国語が役に立っているかということは言葉のわからない人たちに聞けばいいと思うが、とても役に立っている。桜本小学校にはいろんな国の方たちがいるのだが、学校からの便りに振り仮名が振ってあったり、どうしても絶対知ってほしいことは英語のできる先生が英語に直してくれる。

また、緊急に読んでほしい手紙は赤、1週間ぐらい先でもいいというものは黄色、時間のあるときに読んでおけばいいものは青などと色分けをして、外国人の人たちに伝えるような取り組みをしてくれている。

英語があるだけで、フィリピンから来ている方たちは読めるので安心する。そういう取り組みをしてくれれば助かる外国人の人たちは、たくさんいることは間違いない。

我々は通訳として学校に行くことがあるが、学校の先生が子どものことを親に伝えたいのに、言葉が通じないことで、なぜその子が学校に来ないかとか、いらいらしているかということが分からないことがある。通訳が入ることで、その子の性格が悪いのではなく悩み事を抱えていたということがわかってくるなど、役に立っている。翻訳や通訳によって、母語で会話ができるとか情報がわかるということは、住んでいる人たちにとっては本当に助かっている。

私だけの意見と思われるのは、そういうふうには発言する場所がどこにもないからであって、水曜日の夜は教育文化会館にたくさんの外国人の方たちがいるので、そういうところに出かけて行って聞いていただけるとわかると思う。

委員 乱暴な言い方かもしれないが、ある程度情報発信して、それを我々が受信できるようにしていただかないと、我々は暗中模索することになる。やはり外国人の方が主体になってグルーピングをして、それを的確に日本人に情報を出していただけないかという感じがする。

発言できる場所がないのだったら、そういう場所をつくってくださいということも言ってもらえれば、より具体化すると思うのだが。

区長 私はもう十分だと思う。何も差別をする必要はない。受け入れやすい、暮らしやすいものという切り口で語ればいい話。

部会長 解決策として「外国人市民と日本人の住民との情報交換の場づくり」という提案が出ている。別の委員からも、そういう場がほとんどないという発言があった。だから、区民会議として取り上げてみてはどうかという提案はできるし、実現性も高いのではない



いか。

委員 そういった場所づくりということでは、外国人の弁論大会をやってはどうか。外国人を集めて、議題を決めて弁論大会をやる。そういう中で1つの交流の場ができてくると思う。どういうふうを集めるかというのは、私たちでは全然わからない分野ではあるが。

委員 地域に住んでいる外国の人たちは、どこかに勤めているわけだ。採用している企業がどのようにしてその人たちを受け入れて、仕事をしてもらっているのかということに疑問に思っている。生活習慣の違いもあるだろうし、言葉もイエス、ノーといった程度のやっているのか、わからない。川崎区では大勢生活をしているのだから、そういう人を抱えている企業の考え方も聞いてみたいと思う。

委員 川崎駅周辺はIT産業などの企業で仕事をしている方たちもいるし、結婚で来る方たちもいるし、日雇いで働く場所を転々としていたり、町工場に勤めていたりする。大きな企業で外国人をたくさん受け入れているところは、昔だったらいすゞにはタイ人の方たちがたくさんいたし、臨海部企業の中には南米の方たちがたくさんいる。そこでどんなふうに日本語指導なりが行われているかということにはわからないが、地域で暮らしている人たちを見ると、日本語には本当に不自由している。どうしても仲間内だけで集まってしまうので、20年いても日本語を話さない人はいる。町会や地域の中で日本人と友だちになった人ほど早い。だから地域の中に外国人の人たちが入っていくことができ、日常会話を日本語でする場所ができればできるほど、早く話せるようになると思う。

町会などで、文化の交流をするようなイベントがあって、その中で料理教室などをしてしながら、「うちのすぐそばに住んでいたのね。今度買い物に行くときに困ったら」のような話になっていくといいのでは。

また、外国人市民に限らない話だが、川崎区への転入してきた人に、町会に入るにはここ、子どものことを相談するならここといった、川崎区を知ってもらうための案内を、住民登録や外国人登録に来たときに渡せるように用意する。そして外国人の人には多言語でそれを渡せば良いのでは。町会に入るとのことさえ知らないのだから、町会というのはこんなもので、月幾ら払い、こんな活動があるということがわかるものを渡すと、外国人に限らず、川崎区のことを分かってもらえるし、いろんな活動があることも分かると思う。

事務局 ウェルカムバッグというバッグにマップや冊子を入れて、転入者に渡すことはやっているが、多言語にはなっていない。

委員 それを多言語にしてはどうか。

事務局 そういったものは渡していないが、第1、第3水曜日に外国人向けの相談を英語、中国語、タガログ語で受け付けている。利用率は高くないが、通訳を通して行政について聞きたいことを尋ねて、必要な情報を伝えるというサービス。

委員 うちは比較的桜本に近いので、婦人部の人がお年寄りを迎えてふれあい給食というのを毎月やっている。新しく入ってきた人を何人か紹介してもらって、我々のところへ来て食事をしてもらってもいいなと思う。提案して確認してみる。そういう呼びかけでやってくれるのであれば、1回やってみたいという気がする。

委員 サンキューコールも多言語で対応しているのではなかったか。英語で問い合わせをすると英語のできる人が出てくる。行政のことについての説明だけで、観光案内や民間会社などについては受け付けていないが、使いようによっては結構良いと思う。名称も番号も覚えやすい。

委員 外国人市民会議では、どのような話が出るのか。

区長 市の政策や事業などの話で、身近な生活情報がそこで議論されることはまずない。それについては外国人だからと別に特殊に扱う必要は全くない。必要な情報がどこに行けば手に入るのかという、最低限の案内ができればいいのではないか。

委員 川崎区で暮らしていくのに必要な情報。本当に簡単なことだ。町会にしても、そんなシステムはほかの国にはないので、入ろうとも思わない。町会についての説明があれば、では入ろうかなということになるだろう。まして町会で日本語を教えてくれるなどと言ったら、喜んで入ると思う。

委員 桜本だけではなく、区内のいろいろな地域に住んでいらっしゃる方を対象とした、何か町会でできるような、外国人が参加できるような身近なことがあれば。

委員 桜本は外国人が多いとお思いだろうが、実は中学校では富士見中学が一番多い。桜本よりもずっと多く暮らしている。駅のほうには本当にたくさん住んでいて、地域子育て支援センターの中で外国人がたくさん来るのは、川崎小学校の中にある「あすなろ」だ。昔は桜本に集中しているという感覚があったが、今は区内どこでも暮らしているの

で、そういう人たちが気軽に地域の人と出会えるようなものがあるといいと思う。

どこかの町会で、町内に住んでいる外国人の人の料理を作ってみるというイベントなりをしてくれると良いのだが。私は町会の役員ではないのでできない。

委員 行政は外国人だろうと日本人だろうと区分けしていない、均等に扱っているということだが、これが不便だという話がいっぱい出ているので、そういうことはお互いにもっと緊密に交流しないとイケない。それを町内会レベルでやるか、趣味の会でやるかは思いつかないが、お互いに、アメリカ人のようにレセプションを繰り返すのがいいのではないか。

委員 私は以前、青少年交換ということをやっていた。そのときに扱った学生が、アメリカ、タイ、ブラジル、エクアドル、オーストラリアなどで、16歳から19歳までの8人ぐらいを交換する。日本へ着いて、すぐ日本のホスト高校へ入れる。ホストファミリーにも一切その国の言葉を使わず、日本語で通してくれとお願いする。そうすると大概1カ月いると日本語を理解できようになり、電車に乗ったりデパートへ買い物に行ったりはできるようになる。大人がどうかはわからないが、子どもは早い。

だから、自国を出る勇気があるのだから、そういうところへどんどん飛び込む勇気を持つべきだと思う。その勇気をどうやって持たせるかということが一番大事で、さっき弁論大会の話をしたのも、そういうところへ飛び込ませたいと思ったからだ。

部会長 最後の課題、「自慢づくり」についてはいかがか。

委員 ハードでもソフトでも、ここがほかのまち以上に進んでいると自覚できそうなものをリストアップして、場合によってはコンテストなどをやる。自慢できることを探すには、町内会レベルでやるしかないだろう。町内会で話し合っ、史跡でも、建物でも、お祭りでも何でもいいので、自慢できるものを出してもら。それを各町内会で出し合ってもらい「わがまち再発見ツアー」などをやる。ぐるっと回っていける、地域のバスツアー。

もう一つ、これも町内会レベルになると思うが、高齢者をお呼びして、戦前の川崎や町内の話、戦後の食料難時代などの昔の話をしてもら。町内の情報を知り、古いことを知ると、古い人も新しい人も同じレベルになってくるので、そういうことが大事だと思う。

委員 バスツアーに関しては、川崎は非常に発展している。先日も殿町の高速道路の視察に行ったり、羽田沖の滑走路の建築現場へ行って視察をしてきたのだが、ああいうこと

をやると、川崎を別の目から見るような気がする。そういうツアーは大事だと思う。

例えばJFEや東芝科学館などへ行くと、またいろんな見え方がある。バスツアーというような事業が具体的でいいのではないか。バス代をどうやって出すかという問題はあるが。

委員 あるいは、町内の自慢ツアーということで、大島へ行って、中島へ行って。

委員 例えば多摩川べりで桜を見ながら弁当を食べても良い。そこで長老の人が昔話をしてくれたりだとか、いろんなことが考えられる。そういうものもひっくるめたバスツアーとを考えればいい。要するに、地域の自慢話ができればいいのだから。

委員 もう1つ、それを補完する意味で、実施するというのを、どこかでまとめて発信をする場所ではないか。いつやるだとか、我がまちはこのものがあるというのを開示する場所。

委員 うちの地域は企業とのふれあい交流をやっていて、これはどこにも負けない。運動会と工業祭。これは京浜ふれあいと名付けて完全に巻き込んだ。

区長 バスツアーの件で、羽田沖という話が出たが、経済労働局でやっている観光の事業と重複してしまう。もちろん町内会自慢のバスツアーが可能ならば、それはそれであるのだろうが。

委員 そうするのは一般市民に伝わっているのか。

区長 産業観光ということで広報をしている。

委員 産業観光は、地域振興課が企業市民交流事業でバスツアーをやっていて、JAを見に行ったりしている。

区長 産業観光というと、川崎区を中心に動いていて、バスツアーも何回もやっている。工場や歴史的な場所はもう回ってしまっている。町内の自慢ツアーをやろうとしても、そうすると重複してしまうので、自慢という切り口を何にするかを考えなくては。

委員 確かに、有名箇所をツアーしようとしたら、ほとんどダブると思う。中には3回見たなんていう人まで出てきている。町会単位で、あそこの町会はこんなことをやってい

るというのを見に行くということならばよいのでは。

部会長 従来と違った区民手づくりのものが企画できれば成立すると思う。

委員 あと私は防災の関係で、こうかんクリニックのトリアージを毎年やっている。病院の側でやってもらいたいぐらいだが、なかなか思い切ってやる病院が出てこない。我々は地域でお互いに話し合った中で、トリアージという救難救護の問題を取り扱っている。これは大きな問題だから。

委員 ほかの町内会は、町内会レベルでトリアージをやっている現場を見たいだろう。

委員 地域の歴史を知っている長老の方がたくさんいるので、まずは小規模的なところで、自分の住んでいるまちの歴史を話してもらって、そこから先へ進んでいくのも1つの良い方法なのではないか。

委員 そういうやれることを全部やって、この町内会は長老の話、ここは自慢話、ここはお祭りのとき市民に声をかけていただくとか、そういうことで人のつながりをつくれば良い。町内会だけではなく、もっと範囲を広げていったらいかがか。

部会長 5つの課題についていろいろなご意見が出てきた。時間の関係もあり、あとは事務局と私とでまとめさせていただいて、それを委員の皆さんに提案させていただくという方法で良いか。

各委員 異議なし

### 3 閉 会

事務局 <全体会議の日程、区ホームページでの会議録公開、市政だより川崎区版への記事掲載を説明>

部会長 最後に、副委員長から感想も含めて一言お願いしたい。

副委員長 本当にいろいろ難しい問題があり、これをどうまとめていくか、皆さん大変だろうと思う。

中原区の区民会議では、全体会議に傍聴人が40名来たということで、今ほかの6区の区民会議では非常に興味を持っている。そのときのテーマは自転車。自転車の問題は以

前からやっているのになぜ集まったのか。それは各委員が、区民会議の認知度が低いということで、自分たちの仲間を傍聴人として誘ったということだ。

やはり委員1人1人が仲間を集めて、我々はこんなことをやっている、皆さんの意見をなるべく聞こうとしているということを理解してもらえれば、川崎区でも入り切れないほどの傍聴人が来てくれるのではないか。そうすれば会議の進行も良いし、行政も身を引き締め、議員の先生方も緊張するだろう。皆さんにぜひご協力いただければと思う。

部会長 ありがとうございます。

午後 8時41分 閉会